

## 2 アテ集団枯損被害対策の研究（第2報）

予算区分：県 単  
担当科名：育種科

研究期間：平成 12～14 年度  
担当者名：矢田 豊  
三浦 進

### ．目的

平成 11 年、穴水町アテ人工林において約 30 年生のアテが集団枯死する被害が発見されたため、枯死の直接原因を特定し、被害防止策を検討し適切な施策実施への判断材料を提供することを目的として、本研究を実施する。また以前よりアテ林業において問題化しており、今回の枯死被害にも関係が深いと考えられる漏脂病に関しても、その対策を究明する。

### ．試験結果

漏脂病関連菌以外の、特定の病原菌等は検出されなかった。平成 13 年夏季は高温小雨により乾燥ストレスがかかったにもかかわらず、一般的な伝染性病害に見られるような著しい被害拡大は認められなかった。

被害林分における効果的な間伐実施のため、可視被害は認められないがすでに衰弱している個体を識別する手法について検討を行った。その結果、若齢枝の木部圧ポテンシャル測定、打撃音診断、樹幹表面温度測定により衰弱個体を識別できる可能性を見いだした。

今後、枯死被害の原因究明のための調査を引き続き継続するほか、枯死被害の拡大状況把握、漏脂病の被害経過の予測、間伐対象木選定法の確立とその実証試験、抵抗性個体選抜の可能性検討等を実施してゆく。

### ．協力機関

三重大学、森林総合研究所、東京農業大学他

### ．今年度成果発表状況

- 1) ヒノキアスナロ・ヒノキ漏脂病の発生環境 地域・標高区分を中心とした解析から - , 第 112 回日本林学会 (ポスター発表), 2001.4
- 2) 樹幹表面温度測定によるアテ (ヒノキアスナロ) 漏脂病の衰弱度診断, 第 6 回樹木医学会 (口頭発表), 2001.11
- 3) 打撃音解析による生立木の非破壊診断の可能性 - IC レコーダーによるサンプリング、アテ漏脂病の診断法の検討 - , 中部森林研究 50, 2002.2
- 4) 木の体温測定で何がわかるか? , 第 113 回日本林学会大会研究集会 第 12 回樹木病害研究会「樹木の健康」(口頭発表), 2002.4